令和元年度第２回鹿沼市総合教育会議　議事録

１　日　時

令和元年９月２６日（木）　午後２時００分～午後３時００分

２　場　所

鹿沼市民情報センター

３　出席した委員

市　　長	佐　藤　　信	教　育　長	高　橋　臣　一
教育長職務代理者	鈴　木　　泉	教 育 委 員	倉　松　俊　弘
教 育 委 員	平　野　美　恵	教 育 委 員	宮　田　里　枝

４　出席した事務局職員

(1) 総　務　部

部　　長	糸　井　　朗	企 画 課 長	矢　口　正　彦

(2) 教育委員会

教 育 次 長	上　林　浩　二	教育総務課長	髙　橋　年　和
教育総務課	大　出　知　恵	教育総務課	山　本　敬　子
学校教育課長	駒　場　秀　明	学校教育課	湯　澤　正　弘
学校教育課	髙　橋　奈穂子	生涯学習課長	仲　田　順　一
生涯学習課	清　野　竜　一	文 化 課 長	渡　辺　　靖
スポーツ振興課長	田野井　秀　雄	国体推進室長	塩　澤　昌　宏

５　傍聴者

なし

６　決定した事項

(1) 「授業力向上事業（外国語活動、英語科）」については、引き続き推進していくこと。

７　会議の概要

(1) 開　会（進行：髙橋教育総務課長）

(2) 挨　拶

ア　市長挨拶

本日は、令和元年度２回目の総合教育会議にお忙しいところ出席をいただき、誠にありがとうございます。教育委員会の皆様には、日頃から市政に関し、様々な面からのご支援、ご協力をいただき、この場をお借りして感謝を申し上げます。

先日も千葉県の方で台風１５号により大変な被害がありました。今回は風による被害ということで、誰もが支援に行けるというものでなく専門的な技術や知識が必要な部分もあり調整を図られておられるようです。

災害があって「学校が再開になりました。」というニュースが流れると、にこにこと笑顔で学校に登校している子供たちの姿にいつも感心します。あの姿を見ると、不幸にして学校に行けなくなってしまう子が出てしまうというのは、悲しいことなんだなと痛切に感じまして、学校というのは皆でわくわくして行ける場所でなくてはならない、そういった素晴らしい学校づくりを目指して、頑張って頂いていることを心強く思っております。

９月も間もなく終わろうとしていますが、今年度の教育委員会主要事業であ

る、教育 ICT 整備に伴う「全小学校のタブレット配置」「全中学校のパソコン更新」や「北小学校整備事業」も計画通りに進行しております。

「総合教育会議」も創設されて今年で５年目となります。制度創設以降、児童生徒の生命及び身体に被害が生じる事件も発生せず、緊急の総合教育会議を招集することなく本日を迎えることができましたことは、市長部局と教育委員会の危機意識の共有があったからであると思います。

引き続き、市民にとって効果的な教育の施策が図れるよう、これまで以上に市長部局と教育委員会が密接な連携を図りながら一体となって進めてまいりたいと考えておりますのでどうぞご指導いただければと思います。

本日は、英語科の授業力向上事業の経過報告等を予定しておりますが、委員の皆さんには忌憚のない意見をお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

イ　教育長挨拶

本日は、今年度第２回目の総合教育会議を開催いただき、誠にありがとうございます。ただいまの市長のご挨拶にもありましたが、制度創設以降、緊急の総合教育会議を招集することなく本日を迎えることができました。ひとえに、委員皆様の日頃のご尽力の賜物でありまして、改めて感謝を申し上げます。

現在、教育委員会では平成２３年に策定しました鹿沼市教育ビジョンに基づきまして事務局各課それぞれ施策を推進しているところですが、後半の基本計画の３年目を迎えているところです。これらの取り組みについて７月には、教育委員会が実施する事務・事業の点検評価として、白鷗大学教授を委員長とした外部委員による「評価委員会」を３回に分けて開催をいたしました。教育ビジョンの評価をお願いしたが、評価委員各位からは「非常によくやっている」と高い評価をいただきました。今後も、議会に報告すると同時に公表していきたいと思います。

また、今年３月に「鹿沼市小中学校における働き方改革推進プラン」を策定しまして、今年度は、導入初年度になります。各学校でも学校長を中心に積極的に取り組んでおりまして、出退勤管理を各学校各教職員が取り組み状況を月毎に教育委員会に提出いただいているのですが、時間外勤務が徐々に減ってきている状況です。昨年度に引き続き、８月 13 日から 16 日までの４日間を市内小中学校の学校の閉庁日として実施したところです。

近年教育行政を取り巻く課題は、多種多様であり、内容も様々に変化している状況にありますが、今年度も、市長部局との連携を今まで以上に強化しながら、総合教育会議で策定した本市の「教育大綱」の基本理念である『学びから未来をひらくひとづくり』に基づいた事業を展開していきたいと考えております。委員の皆様には引き続きご支援をお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。

⑶ 報　告

授業力向上事業（外国語活動、英語科）について

英語教育の拡充強化の取り組みの一環として授業力向上事業、外国語活動、外国語科、英語の取り組みについて説明させていただきます。

新学習指導要領は、小学校では令和２年度から、中学校では令和３年度から全面実施となります。新学習指導要領においては、何ができるようになるか、何を学ぶか、どのように学ぶか、というところから、より良い学校教育を通じて、より良い社会をつくるという目標を共有し、社会と連携、共同しながら未来の作り手となるために必要な資質能力を育む、というところに教育が進めら

れていくことになります。

特に、育成を目指す資質・能力の３つの柱として、学びに向かう力・人間性等と、何を理解しているか何ができるかという知識技能、理解していること・できることをどう使うかという思考力・判断力・表現力が 3 本柱として示されております。ではそのような中で外国語活動、外国語科を通して育成したい資質能力とは何かと考えた時に、グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は生涯にわたり様々な場面で必要となることが想定されるということで、小学校では中学年３，４年生から外国語活動を、高学年５，６年生から外国語科として目標が立てられました。では目標の大きな変更点について説明させていただきます。現行では小学校の外国語活動は５，６年生が活動を行っていますが、３，４年生から活動に入ることに変わり、年間３５時間になります。５，６年生は今やっている外国語活動が、教科になりまして、外国語科として年間７０単位時間、週に２コマ程度で行われることになります。

中学校での時数は変わりませんが、目標が大きく変わります。コミュニケーション能力の基礎の育成から、コミュニケーション能力を育成することに変更になり、英語の授業は基本英語で行われるようになります。もうひとつの大きな変更点は、現行では中学校卒業時に１２００語程度の語彙といわれていますが、新学習指導要領では、小学校からの積み重ねを含めて２５００語ということで、現在の倍の語彙を求められるようになります。

それらを踏まえ本市としてどう取り組むかということを説明させていただきます。英語によるコミュニケーション能力の育成のために、本市では授業力向上事業モデル校として東小学校を昨年度から設定させて頂いています。また、文科省から教育課程研究指定校事業として委託され、本年度来年度の２か年にわたり、鹿沼市の取り組みを全国に紹介することになります。その際に「外国語を用いて対話できる児童の育成、関わり合いを通してコミュニケーション力を育む授業の工夫」、という課題を立てまして、実際に子供たちに新学習指導要領を見据え、言語活動を通しての具体の指導の在り方について、関わり合いを通して英語によるコミュニケーション力を身に着けるため、教員と児童のやり取りや、児童同士のやり取りを通して、思考力・判断力・表現力等の育成を図ることになります。

研究体制については、東京家政大学英語コミュニケーション学科と連携しまして年間５回の指導をお受けしており、また、宇都宮大学教育学部とも連携を図り、小中連携も進めていきたいと考えています。

実際のやり取りでコミュニケーション力を身に着けるためにどんなことを考えているかということですが、言語習得の流れを意識しております。

１つ目　たくさんの言葉を覚えるためには、たくさんの言葉を受ける input を入れていきたいと考えています。そのために、現在研究しているのは、teacher talk 、先生方がどんなことを話すかということを注目しています。次に目標となる表現を示して、児童生徒に考えさせて気づかせるという事がポイントになっています。例えば今までですと、英語を見て先生が単語を repeat after me として、それを覚えていくというやり方をしていましたが、これからは先生が自然な会話の中で子供たちに気づかせるような取り組みをしていくことになります。あとでビデオを見て頂きますが、input という先生の英語を聞いたなかで、こん

な意味かな？と考えた時にいきなり話せるようにはなりません。その時に自分の中に取り込む必要があります。これが intake と言われるものです。intake をするために、必要なものが、interaction 、英語でのやり取りになります。聞いただけでは覚えられない、自分だったらどうだろうと考えることで英語を自分のものにすることが出来ます。それが終わってから実際に output 自分で表現することが出来るようになります。児童生徒の個性や思いを引き出す自己表現の場をつくるという事を英語教育の授業の中で研究をしております。（資料を見て）こちらは氷山になっております。実際に英語を話す部分が海から上に出ている氷山の一部分です。英語をこれだけ話すようになるためには、海の下にあるこれだけの input 量が必要だと言われています。なので、こどもたちに、授業の中でいかに英語を聞かせるか、いかに英語を自分のものとさせるか、やり取りを経験させるかという事で授業を進めています。

では、そのためにどんなことを考えて取り組んでいるかと言いますと、言語活動を通して英語のコミュニケーション力の向上を図ります。ポイントの一つ目、こどもの生活体験や、興味や知識を言語活動につなげ、意味のあるやり取りを行うとしております。二つ目、こどもとのやり取り、意味を考えさせ気づかせる。という事を行っています。この二つの柱を基に、子供たちにコミュニケーション力を育成したいと考えており、、本市独自の外国語授業の基本の型を示しまして、こちらを全小学校でこの流れで取り組んでもらっております。特に本市の特徴として、入れさせてもらったのが「ジョリーフォニックス」、これは音声と文字を一致させるための取り組みになります。今まで単語は、例えば、BOOK（ビーオーオーケー）とあれば、アルファベットを習って、いきなりブックとは読めません。音声と文字が一致しないのが英語の特徴なんですが、それを解消するために、学ぶのが「ジョリーフォニックス」になります。こちらは実際に児童の取り組みの様子を見て頂きたいと思います。

二つ目の本市の特徴として、Small Talk＆Interaction 児童とのやり取り、実際の生活とつなげたやり取りを英語で行っています。この二つの特徴をとって本市の授業の基本の型としています。まず一つ目の特徴であるジョリーフォニックスを取り入れた理由ですが、①どの子も楽しめるお話や絵がある②英語を母語としない子も学べる。③他感覚法を用いており、どの子にも適応する教え方である。④系統だった指導ができる。といったことによります。

最初に学ぶのが「S（エス）」ですが、子供たちは「エス」とは読みません。

次が「A（エー）」子供たちは「アー」と練習をしています。

子供たちが実際に使っている授業の様子をご覧ください。

【市内小学校のジョリーフォニックスを取り入れた
外国語活動の様子を上映】

次に、二つ目の特徴である Small Talk＆interaction について説明させていただきます。英語のやり取りを ALT と担任が行い、実際の生活につなげることが大切になってきます。昨日見たテレビ、昨日食べたもの、先週したことなど、子どもたちが楽しく聞いたり話したり出来る話題で行い、そしてその時に本時の学習につながる英語を導入することで、復習と新出事項をつなげるという方法をとっています。目的としては、既習事項の復習をする、本時の学習につなげる、英語を使ってのコミュニケーションって楽しいなという気持ちを育てる、ということ

になります。子どもを巻き込んでやり取りを行います。

コミュニケーション力を育む授業の工夫としては、授業全体を通して、教員と児童、児童同士のやり取りを実施し、「主体的に学び、意味のある対話から深く考え学ぶ」という学びのサイクルを軸にコミュニケーション能力の育成を図っていきたいと考えています。

特に、今年度来年度にわたる小学校での研究では、コミュニケーション力を育む授業の工夫として研究内容１やり取り（インタラクション）が効果的か、児童の興味・関心を引くか、必要性・必然性を感じるか、どんな言語材料を用いることが可能かを研究し、インタラクションを効果的かつ自然に取り入れた学習指導案を作成する。これをもとに鹿沼市全校で取り入れていきたいと考えています。二つ目として、小学校と中学校の指導の連続性を図っていきたいと考えています。現在、中学校においても、やり取りを中心とした授業になるようにお願いしています。では、文科省の視学官が訪問した際の研究授業をご覧ください。

【自然生活体験学習についてALTと児童のやり取りを上映】

【日常生活のおしゃべりを繋げていくALTと児童のやり取りを上映】

というような研究を今後も続けまして、令和元年度令和2年度とこのような研究内容で進めていきたいと考えています。以上で説明を終わります。

教育委員会から報告のあった「授業力向上事業（外国語活動、英語科）」については、引き続き推進していくことで了承した。

⑷ 閉　会